

☆それぞれのパートを演奏する隊員。－ 3



☆それぞれのパートを演奏する隊員。－ 4



結団50周年記念式の記録 (平成15年10月 穴守稲荷神社)

- ・開会式、佐藤名誉団長・石井団長・安藤・三渡両副団長、司会はOSF内山氏。



- ・音楽隊の演奏、和室ならではの苦勞がありました。



・ 祝賀会場の廊下で、各種の展示物をご覧になるご来賓。



・ 歓談中の、音楽隊吉澤コミッショナー（現育英会長）と育英会石井副会長。



・東京地区連盟・山下顧問と各都内団の団長。



・団員達の祝賀会場、「海洋少年団員は、好き嫌いがありません。」



・佐藤名誉団長（兼・音楽隊長）は、元気一杯の二刀流。



・佐藤隊長と石井団長（当時）に攻められて、就任を承諾された本間音楽長。
大田区吹奏楽連盟の会長であり、子どもブラスバンドを率いて活躍されています。



- ・ 結団 50 周年記念式の総括責任者、第 3 代石井団長。(現名誉団長)



- ・ 育英会石井副会長と、育英会理事の皆さん。



・企画から運営の中心となった、父母会とOSF会のメンバーです。



・主役はもちろん団員達、日本連盟音楽隊を受託して満20周年となりました。



以上、10年後（60周年）の記録と併せてご覧ください。

ごあいさつ

大田区海洋少年団
団長 安藤日出男

大田区海洋少年団の結団 60 周年、並びに音楽隊創設 30 周年の記念式典を開催致しましたところ、公私共にご多用にも拘わりませず、日本海洋少年団連盟の草刈会長様はじめ、都内各海洋少年団及び横浜海洋少年団の幹部の皆様、また地元大田区からは松原区長様・清水教育長様、羽田・糎谷各特別出張所責任者の方々、また都議会・区議会の議員の皆様、そして永年に亘り、大田区海洋少年団をご支援戴いております、伊東奨学会様はじめ育英会・ロータリークラブその他多くの支援団体の皆様、更にはボーイスカウト・ガールスカウトなどの友好団体の皆様が、私どもの為にご出席賜りました事に、深く感謝申し上げますと共に、厚く御礼申し上げる次第です。

大田区海洋少年団は、昭和 27 年 7 月 20 日に佐藤音楽隊長を中心に、地元有志の方々の熱意とご協力の下に結成され、初代の小林団長に始まり第 2 代佐藤団長・第 3 代石井団長、そして平成 17 年に小職が第 4 代団長を拝命致しまして、この 7 月にはお蔭様で満 61 年を迎える事が出来ました。

ここに、結団 60 周年記念式典を迎える事が出来たのも、団関係者はもとより羽田・糎谷を中心とした育英会の皆様並びに、伊東奨学会様をはじめとするご後援団体各位の、永年に亘るご支援のお陰と、重ねて感謝申し上げます。

海洋少年団では、小学生から高校生までの男女の団員が、海を訓練の場として海に親しみ、団体生活を通して社会生活に必要な徳心を養い、心身ともに健康でたくましい人間の育成を目指しています。

そして、『海のような広い心で団結し、すべての人を友とします。体をきたえ心を養い、立派な海の子になります。』と【ちかい】で掲げています。

私も 13 才で入団し、団員・リーダー・指導者として今日まで歩んで参りましたが、今でもこの大田区海洋少年団は、多くの仲間に側面から支援して戴いております。

また、30 年前には海洋少年団を愛する卒団者を対象に、OB会を前身とする O S F 会を結成して、三渡会長を中心に団支援活動や親睦活動を行なって参りましたが、今年東京で開催の全国大会や、団 60 周年記念事業に於いても、絶大なご支援を戴いております。

さて、当大田区団では、この 20 年来多くの課題を抱えており、特に団員の確保とリーダーの若返りを図る事は喫緊の課題であります。

この 60 年という歳月は、人間で言えば還暦にあたります。これを契機に、これらの課題の克服と新しい海洋少年団を模索し、子どもにとって魅力ある海洋少年団を目差して参りたいと思いますので、更なるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

創立六十周年に寄せて

大田区海洋少年団
育英会会長 吉澤 敬地
(音楽隊コミッショナー)

大田区海洋少年団が昭和二十七年に創立されてから、本年で六十周年の節目を迎えられたことは大変喜ばしく、お祝い申し上げます。

団の創立以来、練習船の寄贈等、地元住民の一人として微力ながら活動にご協力させていただけたことを大変誇らしく思います。

また、大田区海洋少年団音楽隊におきましても、日本海洋少年団連盟の音楽隊を受託して三十周年とのことで、併せてお祝い申し上げます。

私たち日本人にとって身近で偉大な海を通じ、学び・親しむことで、少年少女たちの健全育成ならびに人格形成を育む場として、戦後の混乱期から間もなく海洋少年団が結成されました。

今日まで数多くの少年少女たちがこの学び舎から立派に巣立ち、地域社会に貢献する人材へと育ちました。これもひとえに区内各小中学校をはじめ、各地区の自治会・町会関係者の皆様、糀谷・羽田等地元の皆様に支えられ、ご尽力いただいた賜物であり、心から感謝申し上げます。

大田区団には、全国の海洋少年団で唯一の音楽隊が組織され、「大田区海洋少年団音楽隊」の名で地域行事や全国大会で活躍し、皆様に親しまれています。この音楽隊の活動の中に「こどもブラスバンド教室」という活動があります。

この教室は、地域の諸団体・教育委員会等のご協力により、小学生が吹奏楽を体験できる場として開設されたものです。ふだん交流のない他校の子ども達が、音楽活動を通じて親交を深め、助け合いながら活動することで、豊かな心・優しい気持ちを育むことができると考えます。

五月の開校式ではよそよそしかった子ども達が、三月の修了コンサートで仲間たちと楽しそうに演奏している姿を見ると、私たちも清々しい気持ちになります。音楽は、人を慰め、励まし、元気や勇気をくれます。この教室で学んだ子ども達も、人にそんな気持ちを与えられる人間になっていただきたいと思います。

私ども育英会は今後とも変わらず、地域の子どもの健全育成及び人格形成の一助となるべく、海洋少年団の自主的な活動のバックアップを全力で行なっていく所存であります。

六十周年を迎える大田区海洋少年団、三十周年を迎える大田区海洋少年団音楽隊は、それぞれ七十周年、四十周年に向け新たな一步を踏み出します。地域の社会教育活動の場として、ますますご発展されることを期待し、お祝いの言葉といたします。

結団六十歳を迎えて

名誉団長（第三代団長）

石井 信

「光陰矢の如し」を、実感させられる思いが強くなりました。

大田区海洋少年団も、日本人が家庭祝儀行事で表現するならば、【還暦】を迎えた事になります。そして、今回六十歳を祝っての記念誌発刊に、寄稿する機会を得た事は最大の喜びであり、『生きていて良かった』がズバリ実感。

懐顧するに、昭和五十九年四月に結団三十周年記念の式典と祝賀会を開催し、六十二年には記念誌を発刊。更に平成四年七月に結団四十周年記念事業の、諸行事の皮切りとして祈年式を執行、小笠原島親善訪問を始め諸行事を施行、そして記念誌「四十歳のあゆみ」を平成九年一月に発刊、記念祝賀会を催している。

この、二度の周年記念誌に寄稿の光栄を与えられ、「三十歳のあゆみ」では副団長（兼・事務局長）の立場で、『巨峰の登攀に挑み登頂の喜び』を例証として記述したり、「四十歳のあゆみ」では団長の立場で、『継続は力なり』を例証して掲げ、人格形成の基礎を養うべく活動目標を示しました。

そして、今回【結団六十歳のあゆみ】に寄稿する機会を与えられ、編集担当者より寄稿の遅れを、再三に亘る督促のサインを受けながら、遅々として執筆が進まず、大変迷惑を掛けてしまいました。

組織の役職の立場上、結団五十周年は他の周年記念に比して慶賀もより大きく、節目として祝うべきであったのに、OSF会の力添えのもと祝賀会のみ止め、記念誌の発刊に至らなかった残念さが脳裏に留まり、筆を執るのも俚ならず、遅れ遅れとなってしまいました。

恐らく、次回（結団七十周年事業）の記念誌には、寄稿は出来ないだろうと想像すると、迷いも生じて余計に執筆が遅れ、そろそろ割付段階であろう時に、ようやく寄稿出来たのが実情であります。

兎に角、組織にあって各周年記念事業を迎えられる事は、最大の慶事であり、吾が大田区海洋少年団の誇りでもあります。

想い起せば、結団三十周年を記念して「団歌」の制定があり、その作詞者として「大変幸せであったなー」と感謝して居ります。

歌詞の通り、「世代は移り人変わり、されど乱れぬ団結よ」の如く、未来に向かって夢を持ち、大田区海洋少年団の益々の発展充実と、弥栄を願い祈って【結団六十歳】の祝いとします。